

新しい授業づくりの文化をつくる

令和5年6月5日実施
「能力ベースの授業づくり実践講座」通信
第10号 F セット 授業研究会

F セット授業研究会 6月5日(月) @山田中学校
単元名:「第3章中世の日本 第1節武士政権の成立」授業者:宮本 直明先生 (山田中学校)

「能力ベース授業づくり実践講座」では、教材研究と授業研究会を1セットとして実施しています。今回は F セットの授業研究会を行いました。本時では、徳政令の支持率を御家人・朝廷・幕府・農民・商人の立場から情報収集したことを基に考察する学習でした。授業後の協議会では、「史実に基づいて多面的・多角的に判断する力が育てられたか」を論点に学びを深めました。齊藤先生のお話では、徳政令の解釈について、史実を追究する学びの描き方についてお話いただきました。

F セットから学ぶ 授業づくりのポイント

正解でなく、「多面的、多角的」に物事を判断する力を育成する

➡社会科の授業では、歴史学的な見解、解釈を覚えることでなく、多面的、多角的に物事を判断する力を育成することが大切です。資料集やインターネットから、取捨選択したり、お互いの考えたことに対して認め合ったりする中で、物事を判断する力をつけることが期待されます。

授業者の学び

この度は、研究授業へのご参加やご支援誠にありがとうございました。本研修において、子どもたちの能力を伸ばすことの重要性を再度確認致しました。探究するための問いと探究課題の連動性や、子どもたちの学びから生まれるズレをいかに問い、深めていくのか。この点において、大変、難しさを感じました。ですが、そのことを大切にし、見逃さないよう心がけることで、主体的な子どもたちの学びの姿がありました。この授業づくりをそれぞれの単元で一貫してできるよう精進していきたいと考えました。

授業者の提案



授業者
宮本直明先生

本時の展開

Why

なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

目指す生徒の姿

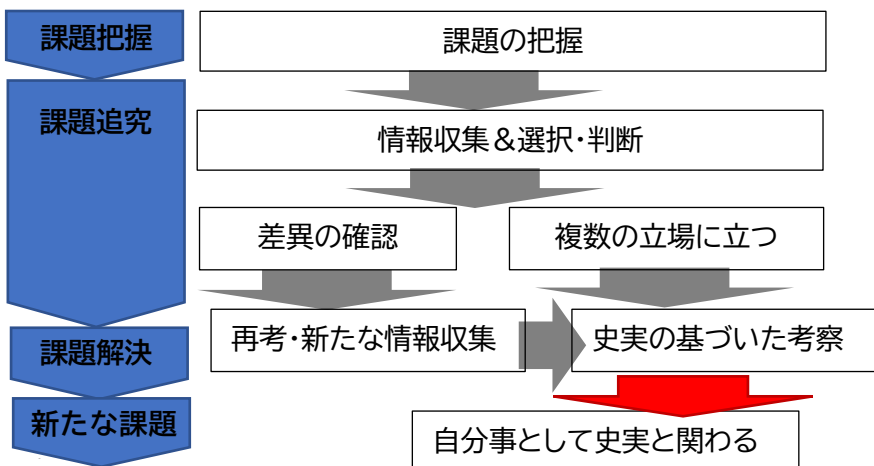
武士の政治への進出と展開を捉え、ユーラシア大陸との交流、民衆の生活の特色を関連付け、中世の社会の変化の様子を**多面的・多角的に考察する姿**。
また、社会的事象に対する**課題を捉え、複数の意見や立場を選択し、判断できる姿**。

What

何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

課題を追究したり解決したりする活動



How

どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

単元を貫く問い

「鎌倉幕府は倒幕を防ぐことはできなかったのか？」

①史実の把握 2時間

武家政権がどのように構築されたのか、上皇、天皇、貴族、貴族方の武士、天皇方の武士、農民、地方の武士の立場から史実に迫る。

②自ら情報を選択し、判断を繰り返す 4時間

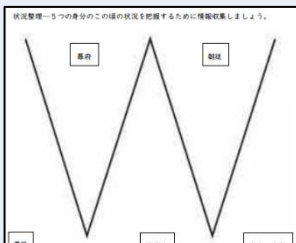
鎌倉幕府を多角的に考察し、貴族と武家政権の違いを比較する。時代の移り変わりから、多面的な変容を探究する。

③社会の変容を多角的に考察する 4時間(本時)

中世の出来事を大陸との交流から関連付け、社会の変容を多角的に考察する。

導入 ①前時の確認

御家人・朝廷・幕府・農民・商人の5つの立場の状況について情報収集をしました。班で確認してみましょう。



展開 ②徳政令への支持率を5つの立場から考察する

徳政令への予想支持率を御家人・朝廷・幕府・農民・商人の立場から出しましょう。

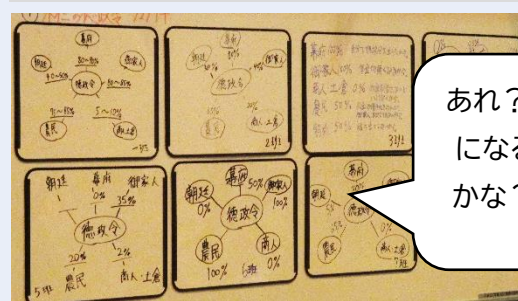


グループに分かれて徳政令に対する支持率を話し合う



朝廷は70%じゃないかな？だって…
武士は…幕府は…農民は…商人は…

各班発表後、先生から支持率の結果を提示
幕府100% 武士70% 朝廷20% 農民50% 商人0%



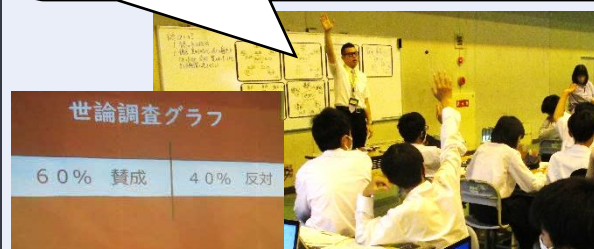
あれ？朝廷が20%になるのはなんですか？予想とのズレ

グループの支持率と提示された支持率の差があるところを問い直し、再考する。

終末 ③現代の暮らし

現代に徳政令が出たときの支持率を予想する

電話アンケートで「来週徳政令が出ます。あなたはこれについて賛成ですか？反対ですか？」と世論調査をした。賛成と反対で予想支持率はどれくらいになるだろう。



社会科の目標【学習指導要領 第2章 第1節 教科の目標】

社会的な**見方・考え方**を働かせ、**課題を追究したり解決したりする活動**を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての**資質・能力**の基礎を次のとおり育成することを目指す。

What

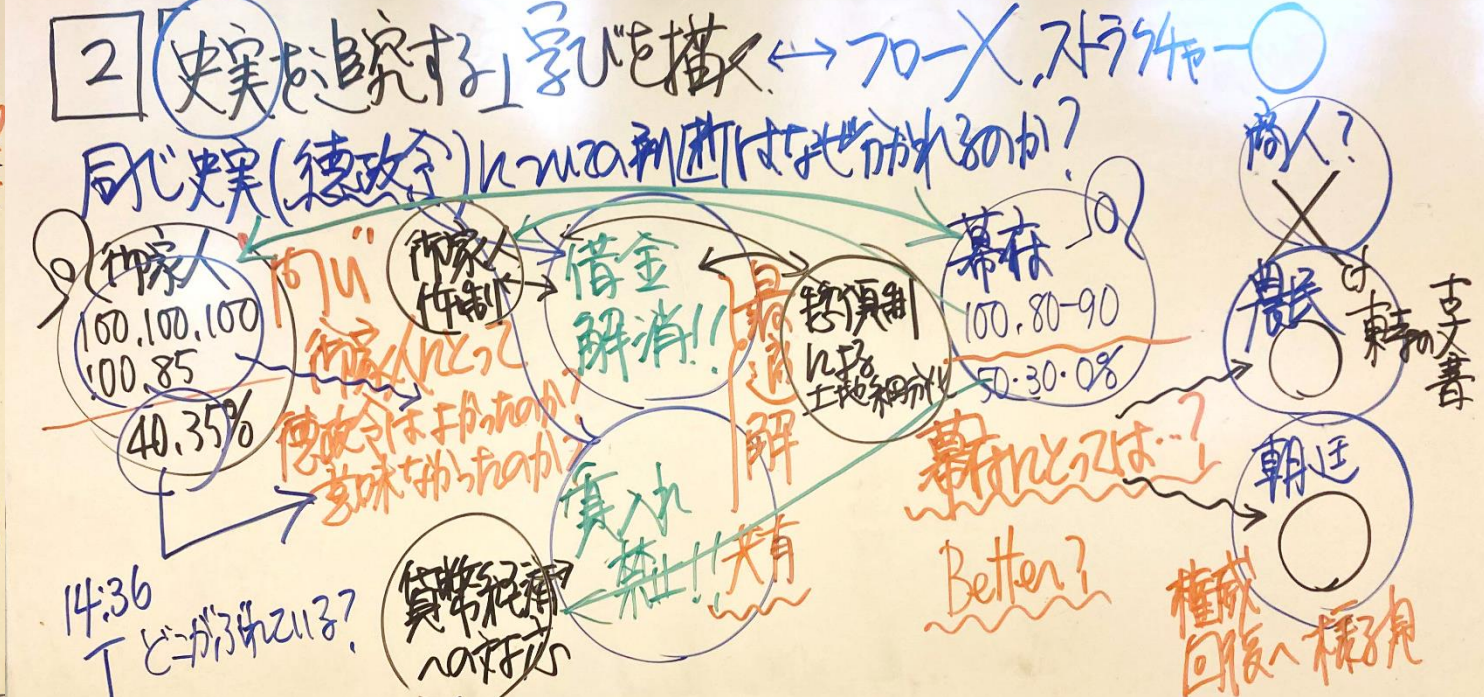
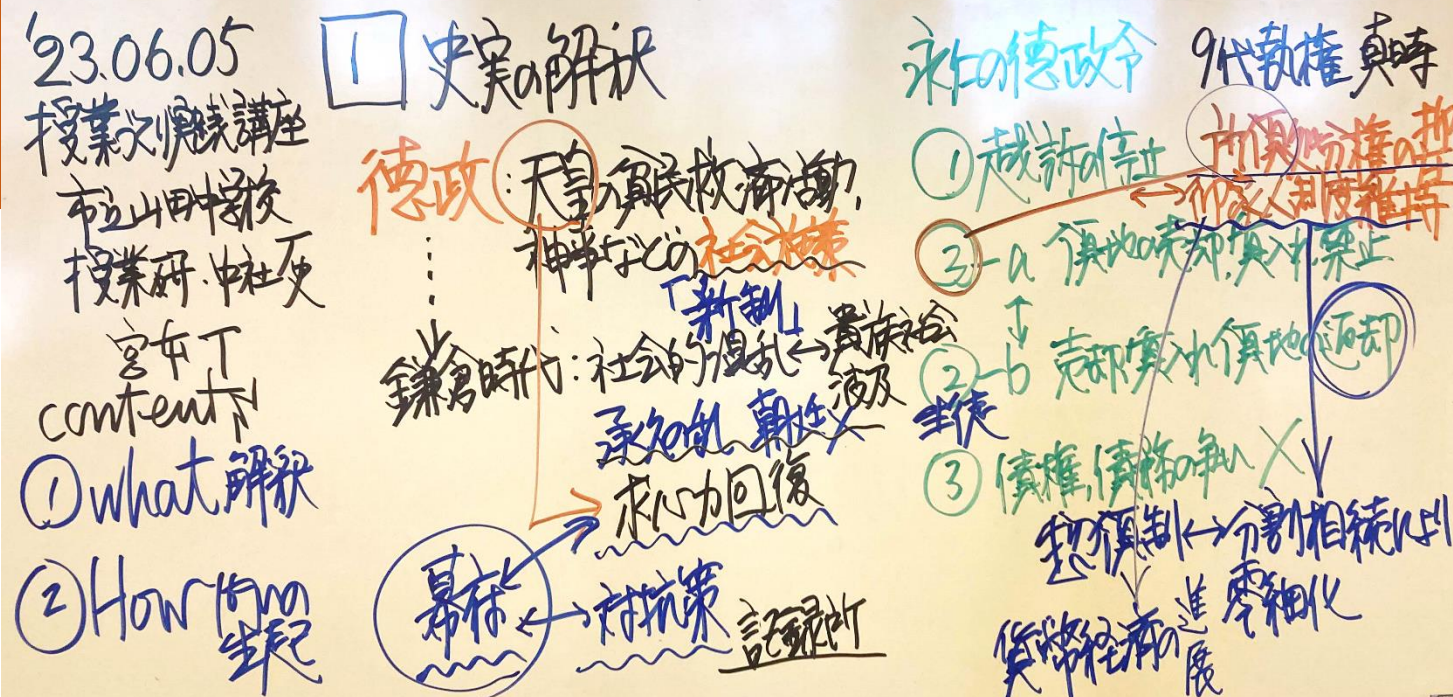
何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

How

どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？



史実の解釈「徳政とは一体何か」

元々は、天皇の貧民救済の施策。国をより良くしていきたい思いがある。ベースにあるのは新制(新しい制度を作る)。今回取り扱われている鎌倉時代は世の中が混乱していた。この社会的混乱が貴族社会にも波及してきた。それが決定的になるのが、承久の乱。この時に朝廷は自分たちの身が危なくなってきた。そこで、天皇(朝廷)は、政治に関心を持たせれば(自分たちがお金の話を持ってくれば)、世の中は、自分たちに関心を向けてくれると考えた。朝廷は、求心力の回復に向けて、徳政令をずっとやり続けてきた。一方幕府も、朝廷政治を批判する立場から、自分たちも徳政を推進していくようになった。

今回の永仁の徳政令は、幕府側の話。お互いが徳政をしていた時代で、幕府は初めて徳政を打つ。生徒がこのような情報を得ているとすれば、朝廷だって実は黙ってないぞというような声が出てくるかもしれない。今回のプリントでは朝廷について、あまり出てこなかった。それが中二の限界なのか、資料の与え方によって克服できるのか、それはやってみなければ分からない。しかし、教師側が教材研究をしておくことが必要。永仁の徳政令は、大きく3つの柱がある。

永仁の徳政令 三か条

- ① 「越訴(おっそ)の停止」…簡単に言うと、1回裁判で負けたら、再審請求はもう受け付けない。
- ② A「領地の売却と質入れの禁止」 B「領地の返却」…売却したり質入れしたりした領地を返す
- ③ 「債務の争いを禁止」

御家人にとって1番メリットがあるのはどれか。生徒が1番メリットを感じていたのは、②B「領地の返却」かつての歴史の解釈も②B。しかし解釈が、進化してきて今は②B「領地の返却」。所領の処分権を抑圧したかった。武士が、御恩と奉公で領地もらっていたが、それをどんどん質入れして、お金に変えたかった。(貨幣経済の進展)領地を戻したのは結果論であって、実は領地の返却を止めなかった。御家人制度を崩したくなかった。

そもそも領地をどんどん質に入れるようになったのはなぜか。御家人は、男の子が3人生まれたら、3人で土地を分けないといけない。100土地があれば、30ずつ組まなくてはならない。するとそれだけでは食べていけなくなる。貨幣経済の進展もあり、領地の売却が進んでしまった。この話は資料集には出ているが、今日は生徒のプリントにはほとんど書かれていなかった。追究を一押し、二押ししないとなかなか生徒が越えられない壁。資料集等を丁寧に見ていけば、プリントに事実が書き込める可能性はある。

永仁の徳政令3か条の裏側→3つがが行われることによって、世の中でどうなるかについて関心を持つことが重要。

史実を追究する学びを描く

今日は、史実に基づいて多面的、多角的に考える場面。何パーセントかを議論をするのではない。

例えば、徳政令でも御家人の支持率が100%が4グループ、85%が1グループ、残りの2つは40%と30%となっていた。そうすると、「**徳政令っていうのは、御家人にとって良かったのか、それともあんまり意味のないものだったのか。一体どっちなんだろう。**」と問いが生まれてくる。これが大事。では、この徳政には一体どんな意味があったかをここで考え、もう1回整理したい。

幕府の支持率も、100%～90%、50%、30%、0%まであった。「これはどうやって説明するんだ?」という話になる。

そうすると…「じゃあ、この両者の関係はどうなんだろう。」「両者の関係から見えてくることは一体何か。」

「何で商人は票が割れなかった?」「商人は一体なんだったのか?」「農民はどうか?」「朝廷はどうか?」

これら思考が、「**この徳政令っていうのは、どういうことなんだ?**」という問いを繰り返して考える。

大きな歴史学的な見解、解釈はある。でも、社会科の授業は、正解を覚えることが大事ではない。細かな事実を覚えることではなくて、多面的、多角的に物事を判断する力が必要。この現時点での最適解の共有ができればいい。そして、生徒たちがお互いの考えたことに対して認め合うことが大事。その時、もっと資料集やパソコン、どんどん開く。その中から、取捨選択して選ぶ力、そういう目を磨いていく。

宮本先生の授業の方向性はいい。もう少し構造的に授業の1時間を組み立てていく。

●支持率の共有場面

各グループホワイトボードで説明するのはやめるべき。タブレットの画面上で共有できる。

また、全部貼ると関係がわからない。今日は、出てくる数字がどうなっているかが大事。

●支持率から問いを引き出す場面

今日はこれだけプレしているから、先生が支持率を持つてくる必要ない。

生徒の支持率で問いを作っておけばいい。

ホワイトボードを貼り出す中で、宮本先生、いいこと言っていた。「**どこがプレてる?**」

「どこがプレてる?」って言った瞬間に、生徒がその瞬間に「朝廷」とか言った。

そこどころ丁寧に見ていけば、「幕府とか御家人なんてもっとずれてる」というのが見えてくる。

このように、生徒から学びを作してほしい。今日は先生が少し大活躍しすぎただから、もっと生徒を信頼する、任せる。先生のことをよく信頼してるから、生徒たちに任せてやっていけばうまく。その中で、「徳政令をなぜ鎌倉幕府は出したか」の裏側に潜んでいること(御家人体制、貨幣経済への対応、惣領制による土地の細分化)を見つけていくのが非常に大事。

【編集後記】

「能力ベースは内容の深い理解に支えられている」どんな学習過程を描いたとしても、教師自身の深い教材理解なくしては子供達の深い学びは実現できない。しかし、教材解釈が深くなればどうしても私たちは教えなくなる。教えなくなるところをぐっとこえ、生徒を信頼する大切さ学んだ今回の授業研。学習者中心の授業にまた一歩近づいた。(文責:教育センター山笠)

- 能力ベースであるからこそ、思考・判断のもととなる知識がとても大切だと思いました。今日は社会のことについて深く学べとても楽しかったです。社会はあまり好きではないのですが、とても楽しくお話が聞けました。今回は、授業展開についていろいろ思う所がありました。(O先生)
- 生徒の発する言葉をつないで構造化していく授業づくりは、国語でも必要と感じたので、もっと教材研究を密に行っていくことが大切だと思いました。(I先生)
- 内容の深い理解に支えられていることがこの能力ベースの授業を目指すにあたって大切だと思いました。やります。(N先生)